

高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）に関するご提案資料①

「窓」を活用したICT授業・教育カリキュラムの充実を計ります。（遠隔授業対応）

【目的】

今回ご提案する「窓」は、本事業に求められている“具体的取組例”にもある通り、「情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の遠隔授業活用を含む履修推進」「デジタルを活用した文理横断的な探求的な学びの実施」「高大接続の強化により高度な専門教科指導の実施」にご活用いただけます。また、様々な地域やコミュニティと連携と接続することにより「デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外授業の推進」を図ることができます。

【窓とは】



遠隔授業シーン

本校と他校、生徒と有識者・現場をダイレクトにつなぐ、コミュニケーションシステム。

「臨場感」と「気配」を感じることでできるシステム“窓”を教育現場で活用します。

窓とは、縦型大画面を活用し、等身大の相手と周辺視野に映る空間の奥行きを感じることができます。また双方向の高音質技術により、会話+適度な環境音を伝えることで本当に同じ空間にいるような感覚を生み出すことができるシステムです。

【窓の特徴・メリット】

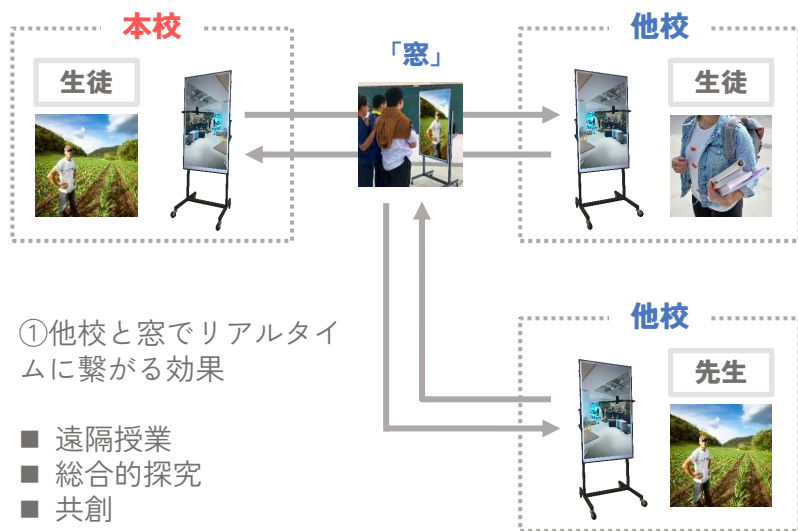
- Zoom等とは異なる双方向の音声伝送（低遅延）システムを採用
- 等身大モニターによる全身が入る空間設計
- 外部講師など遠隔授業における移動コストの削減



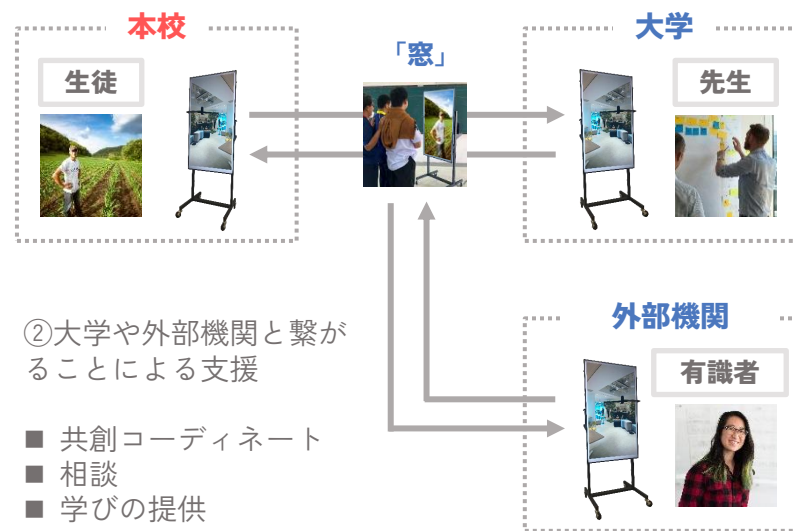
- 音声が途切れなく、双方向で同時に話せるストレスフリーな会話
- 等身大・実物大のリアルな映像
- そこにあるような「臨場感」と「気配」

■ 教育現場での利用イメージ（DXハイスクール募集要項に合わせ）

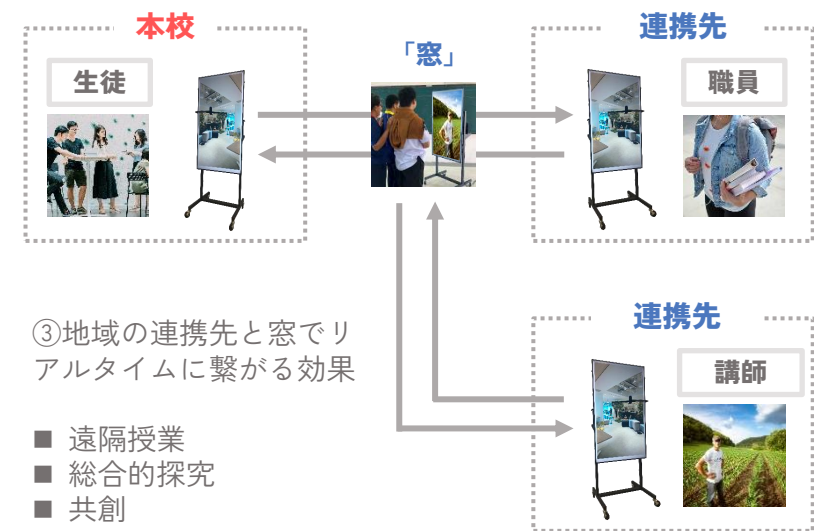
【事例①】



【事例②】



【事例③】



■ 導入事例

- 隠岐高校（隠岐の島町）一島前高校（海士町）、東川町日本語学校ータイ外国語学校、ジオパーク全国大会会場と遠隔地（外部講師）との接続 など実績多数